

| | | | |
|------------------------------|---|----------|---------------------|
| 大学名 | 京都大学 | | |
| University | Kyoto University | | |
| 学部/研究科 | 霊長類研究所 | | |
| Faculty/Department | Primate Research Institute | | |
| 研究指導者 | 半谷吾郎 | 職名 | 准教授 |
| Research Advisor | Goro Hanya | Position | Associate professor |
| 帰国留学生 | リザルディ | | |
| Former International Student | Rizaldi | | |
| 派遣期間 | 2013年11月10日 ~2013年11月19日 (10日間) | | |
| Period of Stay | 10 days (November 10th, 2013 - November 19th, 2013) | | |

<帰国留学生プロフィール/Profile>

| | |
|-------------|------------------------------|
| 国籍 | インドネシア |
| Nationality | Indonesia |
| 所属機関 | アンダラス大学・講師 |
| Affiliation | Lecturer, Andalas University |
| 現在の職名 | 講師 |
| Position | Lecturer |
| 研究分野 | 霊長類学 |
| Major Field | Primateology |



アンダラス大学でのワークショップ
Workshop at the Andalas University

<研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

| |
|---|
| ①研究指導概要 / Outline of Research Guidance |
| <p>帰国留学生のリザルディ氏は、アンダラス大学で動物生態学の研究室を主宰し、テナガザルなどの霊長類の研究を、スマトラ各地で推進することを目指している。今回の渡航で、それらの活動を援助するため、セミナーでの発表、採食生態学についてのワークショップ、3か所の霊長類調査地の訪問、今後の共同研究に関する打ち合わせを行った。これらの活動を通じて、リザルディ氏が指導する学生に対し、霊長類の基礎的な生態学的調査を行うために、研究の理論的背景、長期調査を行うに当たって必要なデータの収集法、得られたデータの解析法など、研究を開始してから論文としてまとめるまでの過程で必要となる一連の過程について、フィールドでの体験も踏まえて体系的に教授することができた。さまざまな外部資金を利用したプロジェクトの可能性について議論することで、今回議論した研究のアイデアを実現させ、それを継続的に支援する体制を築く可能性について検討することができた。</p> |
| ②研究指導の成果 / Results of Research Guidance |
| <p>セミナーやワークショップを通じて、リザルディ氏が主宰する研究室の学生に対し、今後の研究をどのように実施していくかについて、実際に調査地を見学した上で、具体的な助言したのが、最大の成果だった。アンダラス大学は、大学のすぐ裏にテナガザルなどの霊長類の生息する森林があり、調査地として非常に有望である。採食生態学のような基礎的な分野では、いくつかの必須項目を押さえておけば、極めて容易に研究を行うことができることを、研究指導者のマレーシアおよび日本での研究を事例にして説明した。また、フリーの統計ソフトRの使用実習を行い、全員が基礎的な使用法を習得することができた。遺伝子解析や栄養分析など、実験室での作業が必要となる場合は、日本での実験が可能であり、それを支援するために、霊長類研究所共同利用制度があることを説明した。今後、これらの小さな共同研究を積み重ねていくことで、大きな共同研究に発展させていくことについて同意した。</p> |
| ③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc. |
| <p>の生態、生物地理などについての研究発表を行ったほか、中国・中山大学の張鵬氏が「霊長類学から見たヒトの本性」について、半谷が「温帯と熱帯の霊長類の季節的に変化する環境への適応」について講演を行った。アンダラス大学での研究の現状を知ることができた。</p> <p>11月12日には、中山大学とアンダラス大学の学術交流協定書への調印式への招待を受け、出席した。リザルディ氏と張鵬氏は、同時期に霊長類研究所社会生態研究部門に大学院生として在籍し、学位を取得した現在、それぞれ出身国で大学教員を務めている。調印式では、半谷も屋久島での研究保全活動についての講演を行った。調印式後、アンダラス大学の学長と会食した。すでに締結、もしくは締結準備をしている両大学と京都大学との学術交流協定とも関連して、3つの大学の連携をどのように深めていくかについて意見交換を行った。</p> <p>11月15日-17日に、西スマトラ州南ソロ群にあるアブラヤシプランテーションKencana Sawitを、リザルディ氏と学生15人と一緒に2泊3日で訪問した。近年、インドネシアでは、霊長類の生息地の森林を伐採して、広大なアブラヤシのプランテーションが広がっており、霊長類の保全のためには憂慮すべき事態である。リザルディ氏は、アブラヤシプランテーション所有会社と話し合いを続け、生物多様性保全の損失を最小限にとどめるような事業方法を行うはたらきかけを行っている。今回の訪問を通じて、生物多様性保全に関わる研究者とプランテーション事業者が、利害対立を抱えながらも同じ席について議論する様子を見ることができた。アブラヤシから収穫されるパーム油の最大消費者である日本の研究者として、リザルディ氏らの挑戦的な試みを、学術的な立場から支援していくことの重要性を実感した。また、車で片道8時間かかる長旅の間、多くの学生と交流を深めることができた。彼らの多くが日本に留学して研究したいという希望を持っており、そのための制度について説明を行った。</p> |

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

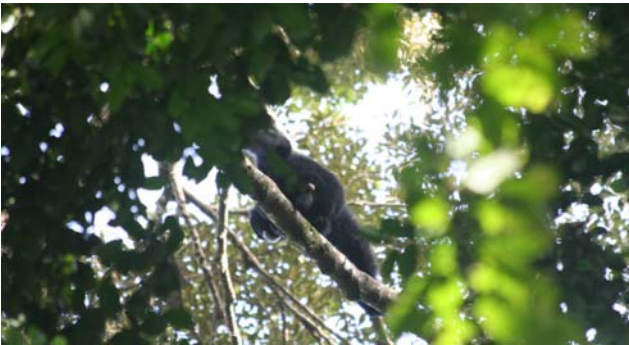
Research guidance activities have involved many students and colleagues from my department and other faculties at Andalas University. Such activities have improved academic and research atmosphere in lab.

②今後の計画 / Further Research Plan

I would like to continue studying ecology and behavior of agile gibbons. I will focus on the relationships between food plant availabilities (quality, quantity, and seasonality) and feeding behavior of the gibbons.

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

This Research Guidance has been able to help us how to find research questions from our best resources and how to improve research quality. This program also maintain link between me and my former study institution in Japan.



アンダラス大学演習林のアジルテナガザル
Agile gibbon in Andalas University forest



南ソロへのフィールド旅行
Field trip to south Solo